

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年11月20日聖日礼拝

ペテロの手紙第1 連講(6)

「牧者のもとに帰る」

ペテロの手紙第1

2章18節～25節

竿代照夫牧師

18 しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。

19 人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。

20 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行っていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。

21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。

22 キリストは罪を犯したことがなく、
その口に何の偽りも見いだされませんでした。

23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

25 あなたがたは、羊のようにさまよって
いましたが、今は、自分のたましいの牧
者であり監督者である方のもとに帰った
のです。

説教

ペテロの手紙第1（6）

「牧者のもとに帰る」

ペテロの手紙第1

2章18節～25節

竿代照夫牧師

主テキスト

「あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。」

(1 ペテロ 2 : 25)

1 . 異邦人の中で美しく！(前回の復習)

- 異邦人社会において良い証しを立てよう
(1 2 節)
- 王や権力者に仕える (1 3 節)
- しもべとして主人に仕える (1 8 節)

2 . 不当な苦しみに耐える (19 ~ 21節a)

- ・ 不当な苦しみを信仰によって耐えることは神に喜ばれる道
- ・ 苦しみに耐える心
「神の前における良心」
- ・ 信仰者は忍耐のために召されている

3 . キリストの模範(21節b ~ 23節)

- ・ 不当な苦しみを受けたキリストは私たちの模範

- ・ キリストの無罪性

「キリストは罪を犯したことがなく...」

- ・ 主は黙って苦難を忍びなされた

[イザヤ53章7節]

彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

4 . キリスト受難の意義(24 ~ 25節)

- ・ キリストの自発的受難

「自分から...私たちの罪をその身に
負われ」

- ・ 義の生涯

「私たちが罪を離れ、義のために生きる
ため」

[イザヤ53章5節]

しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

4 . キリスト受難の意義(24 ~ 25節)

- ・ いやし

「打ち傷のゆえに・・・いやされた」

[イザヤ53章6節]

私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。

- ・ 回復と安心

「自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った」

おわりに

魂の牧者、監督者に帰ろう

過去の姿：「羊のようにさまよっていた」

キリストの贖い

「私たちの全ての咎が彼に負わせられた」

「その打ち傷によって癒された」

帰るべきお方

「たましいの牧者・監督者」

その懐に帰る安心と喜びを味わおう